令和4年度　大田区立東調布第一小学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

≪教育目標≫
○よく考え、工夫する子
○いつも元気で丈夫な子
○こころ豊かに助け合う子
○ねばり強くがんばる子

◇知・徳・体のバランスのとれた東一の子の育成
～未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む～
◇信頼される魅力ある学校づくり
～学校・地域・家庭との連携・協働～
校内研究　「児童が自ら考え、判断し、表現する力を引き出し、高める」
～ICT活用した授業づくり…大田区ICT教育推進授業モデル実証校として～

知（確かな学力）　・・・基礎・基本の定着と共に、主体的・対話的で深い学びにより思考力・判断力・表現力を育成し、子供たちに確かな学力を 身に付けさせる。
徳（豊かな心）　・・・規範意識を向上させると共に、心の教育を充実させ、子供たちの豊かな心を育成する。
体（健やかな体）　・・・体力向上の取り組みや健康教育の充実により、子供たちの健康、体力を向上させる。
信頼される学校　・・・家庭・地域との連携を深め、共に子供たちを育てる。教育公務員として服務を遵守し、保護者、地域の信頼に応える。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケート「ICT機器を活用した授業に取り組んでいる」の満足度が90%以上である。	4:	4	・今年度は、大田区教育委員会より「ICT教育推進授業モデル実証校」の指定を受け、授業での積極的な活用に全教員が取り組んだ。また、取組事例を指導案として明文化し、100を超える事例を作成し、教育委員会に提出することができた。教員一人一人のICT活用能力については個人差が小さくなり、確実に身に付いてきたと言える。今年度実施した学校公開においても積極的な活用場面を参観者に発信したことで、肯定的な意見を多くいただいたと捉えている。今後さらなる充実を図っていくとともに、児童間での個人差が大きくならないようきめ細かな指導に努める。 ・児童の「情報活用能力」を高めるとともに情報モラルについても理解を深めるために、発達段階に応じた「ICT教育年間指導計画」を見直し、各学年において確実に身に付けなければならない能力について再整理を図る。特に自らの考えや思いを表現する上で、文字入力は欠かせないため、タイピング能力のスキルアップについては、計画に位置付けられるようにしていく。 ・昨年度同様、今年度も、「体力テスト」を実施することができた。また、運動会では、表現運動の他に短距離走を行った。児童の体力向上を図るため、人数の制限や実施方法の工夫、児童同士の間隔をとるなどの配慮をしながら体育朝会や教科体育を実施した。都や区からの指示を受けながら今後も児童の体力向上を図っていく。 ＊保護者276名回答 肯定評価：255名（92%）	A	9	・ICT機器はよく活用されていると思います。子供たちは当たり前として使っているようで頼もしいです。ただ個人差が大きいでしょうから、そこのフォローはしっかりお願いしたいです。 ・ここ数年、子供たちの発言力というか発言する気持ちが低下している気がします。正誤のある質問には、低学年でもあまり手が挙がらない反面、自由意見だと元気になります。自信をもつこと、失敗や間違いは成功の元だと知っていほしいです。 ・ICTに関しては、保護者の方への研修や関心の向上が必要に思います。 ・教育活動については深く評価できませんが、未だコロナ禍でありながら、大田区教育委員会より「ICT教育推進授業モデル実証校」の指定を受け、授業での積極的な活用に全教員が取り組み、100を超える事例を作成し、教育委員会に提出できたことは素晴らしいことだと思います。また、現状の社会情勢の中、デジタル化は急速に進み、ICT教育を個人格差が大きくならないよう「タイピング能力のスキルアップ」を図っていることは将来のためにも大変貴重なことだと思います。そして、同時に「体力向上」に心身共に力を入れていることは児童の未来にも大きな力になると思います。 ・肯定評価90%以上あり、ICT教育も着実に使いこなしている。 ・プラン4の体力向上の指針としては、体力テストの実施ができたことは喜ばしいことです。 ・自分の考えや思いを表現する上で、文字入力は欠かせないため、タイピング能力をスキルアップさせていくという目標についてはレベルの高さに驚かされた。 ・大田区教育委員会より「ICT教育推進授業モデル実証校」の指定を受け、全教員が取り組んでくださり感謝いたします。 ・ICT教育という新しい取組に積極的に取りかかっていてよいと思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:保護者アンケート「ICT機器を活用した授業に取り組んでいる」の満足度が85%以上である。	3:			B	0	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	2:保護者アンケート「ICT機器を活用した授業に取り組んでいる」の満足度が80%以上である。	2:					
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「ICT機器を活用した授業に取り組んでいる」の満足度が80%未満である。	1:			D	0	
		未来を創る力を育てるために、外部人材と連携したり、ICT機器を活用したりして、地域学習、国際理解教育、理科教育、食育などを実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケート「確かな学力の定着」の満足度が90%以上である。	4:	4	・どの学年も確かな学力の定着に向け、授業では、教材の視覚化・共有化を図るとども、学習を焦点化し、「わかる授業」の充実に努めている。また、習熟度別算数少人数指導を全学年で実施し、学習への躓きを把握し、きめ細かな指導を行うことで、算数に苦手意識をもつ児童にとって非常に高い効果があると考えている。 ・土曜授業日に実施している「ステップアップタイム」では、全児童を対象に計算力向上を目指したタブレット学習を行っている。繰り返し学習や必要に応じて前学年または前々学年の学習内容にも触れることができ、非常に効果的であった。 ・今後はさらにタブレットを活用して個に応じた指導及び個別最適化な学びを実践し、学習内容の確実な定着を図っていく。 ・少人数での対話的活動を授業の中に意図的に位置付けることで児童の深い学びにつなげていく。発達段階に応じた到達目標を設定することで、対話的な活動の充実を図っていく。 ＊保護者276名回答 肯定評価：254名（92%）	A	9	・とても集中して授業を受けていると思います。先生方がとても工夫していらっしゃるのでしょう。 ・地域柄、学習面では平均以上の子が少なくないが故に、できない子たちへのフォローが心配ではあります。 ・コロナ禍にあってデジタル化が進み、対面教育も少なくなっている中、深い内容は私たち外部の人間にはよく分かりませんが、個々人に応じた目標設定で、「少人数指導」、「分かる授業」、「ステップアップタイム」、「タブレット学習」等、多くのことを対話的（コミュニケーション能力や情報活用）に工夫をし、「確かな学力」定着を図られているであろうことを感じます。 ・肯定評価90%以上で、学力の向上が伺えます。 ・算数少人数指導の全学年実施は大いに評価できる。 ・タブレットを使って応用力が養えてくるのが分かります ・習熟度別算数少人数指導を全学年で実施していることで、算数に苦手意識をもつ児童にとって効果があると思います。 ・学力が定着して良いことだと思います。 ・タブレットという重たい物が増えた分、教科書を軽い物にするとか、2冊ずつにして学校と家庭において運ばなくてよいようにするとか、タブレットに電子版教科書を入れて教科書は運ばなくてよいようにするとか次回分をタブレットで撮影して、運ばなくてよいようにしてほしい。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:保護者アンケート「確かな学力の定着」の満足度が85%以上である。	3:			B	0	
		学習指導員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	2:保護者アンケート「確かな学力の定着」の満足度が80%以上である。	2:			C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「確かな学力の定着」の満足度が80%未満である。	1:			D	0	
		主体的・対話的で深い学びにより、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケート「きまりを守る社会性が身に付いている」の満足度は90%以上である。	4:	4	・学校内では様々なルールが存在しており、児童の中では十分に達成されていないものもいくつかあるのが現状である。例えば、廊下歩行や下校後の忘れ物についての再登校などが挙げられる。新型コロナウイルス感染症により、学校ルールが変更になった場合も多い。児童が混乱することなく、しっかりと整理し、改めて教職員に周知し、教職員が理解した上で、児童への指導の徹底を図っていくようにする。 ・学習規律については、概ね徹底されている。今後も引き続き生活指導部と研究推進委員会からしっかりと発信し、本校のスタンダードを構築していく。 ・毎週金曜日の生活指導夕会では、各学年より配慮を要する児童についての情報提供を行い、全教職員で共有している。問題行動や不登校問題等、多くの教員でその指導の仕方や解決策等について検討している。月1回実施している教育相談委員会においては、配慮を要する児童への関わり方の検討や支援員の配置体制等の確認を行っている。今後も必要に応じてケース会議を開くなど、配慮を要する児童に対して学校、家庭、関係諸機関と連携し、組織的に対応していく。 ＊保護者276名回答 肯定評価：260名（95%）	A	8	・集団生活を送る上での大切なルールはしっかり守れていると思います。 ・挨拶はマスクの影響か、今年度も校内で受けることは少なかったですが、来年度からは少しずつ戻ることでしょう。できれば、一歩進んですれ違うときにゆずり合いや一言「すみません」や「ありがとう」の声掛けなど家庭と連携してできたらよいですね。 ・残念なことに今年度は草木や花が折られたり、踏まれたりすることが少し多かったです。施設利用のときかもしれませんが、育てて枯れていくまで責任をもたせる指導の大切さを感じます。 ・コロナ禍で活動も減り、児童のみなさんとのふれあいが減り、さみしい限りですが、私共地域住民としては授業参観、学校公開、運動会、学芸会等開かれた校内外での皆さんの姿や一緒になっての活動の中で、ややおとなしい面はあるものの、挨拶やマナーはしっかりやっていると思います。しかし、これは東一小ではありませんが、最近社会問題では「いじめ」が多く取り上げられていますが、今後デジタル化が進む中でITを使用した「いじめや事件」が増えてくると思われますので、注意も必要かと思われます。 ・95%と高い肯定評価である。問題行動や不登校問題等、配慮を要する児童への対処方法は教職員が連携を取り合って決めている。学校ルールが新型コロナ感染前と変化しているが、児童への整理・指導に努めている。 ・登下校時に挨拶をしっかりできる児童が多く、日頃の児童への教育のおかげだと思います。 ・登下校時に挨拶をしてくれる、返事をしてくれる児童がとても多いことはとっても良い状態だ。 ・たまの下校の様子を見ただけではあるが、走り出すもしくは複数人で立ち止まり、話しをしたり、道路に出てしまう児童が増えていると感じています。元気溢れる子が多くなったのかもしれないが、校内で抑圧されている反動が下校時に表れているのではないかと危惧します。（もう少し大らかに）
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:保護者アンケート「きまりを守る社会性が身に付いている」の満足度は85%以上である。	3:			B	1	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:保護者アンケート「きまりを守る社会性が身に付いている」の満足度は80%以上である。	2:					
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4					C	0	
		あいさつ運動を推進し、きもちよい挨拶の習慣を身に付ける指導に努めている。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「きまりを守る社会性が身に付いている」の満足度は80%未満である。	1:			D	0	
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:児童アンケート「（自分は）体を動かすことが好きだ」が90%以上である。	4:	3	・本校では「早寝・早起き・朝ごはん」の強化週間を設けるとともに児童や保護者の意識向上を図るため、チェックカードを活用し、規則正しい生活を送ろうとする態度の育成に注力している。 ・感染症予防マニュアルを作成し、全教職員で感染症予防に取り組んでいる。マスクの着用や手指消毒、ソーシャルディスタンスなど、気を緩めることなく「大田区立学校における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を踏まえ、学校全体で今後も感染状況を鑑み継続して取り組んでいく。 ＊児童653名回答 肯定評価：565名（87%）	A	9	・休み時間、どの学年も全力で走り回る様子に、「これぞ子供。」といつも思います。中には外で遊ぶのを少しためらうけど、少し身体を動かすくらいならやりたいという子もいると思うので、ピロティーに何かそういう場があってもよいかと思いました。 ・体育の授業は準備運動でランニングをしないのでしょうか。 ・コロナの制約が少しずつ緩和される中、徐々に校庭や体育館での児童の元気な声が聞こえ、体育的行事、クラブ活動、休み時間、校庭開放時等でも感染防止に注意しながら工夫しつつ楽しんでいる姿を見るのはとてもほっとした気分になります。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の規則正しい生活指導を学校でしっかり行っていることはとてもよいことだと思います。また、生活の中での教職員の皆様及び児童の皆さんも感染症対策にはしっかり対応している姿を学校訪問の際や校外でのマスク着用を見てもしっかり行っていて安心しています。 ・プラン4は児童へのアンケートで肯定評価が87%で評価が6つの中で一番低かった。チェックカードの活用は規則正しい生活にメリハリが生じてきます。児童自身の評価が90%以上になることを願っています。 ・休み時間には大きな声で元気に走り回って遊んでいる姿が見られ、気持ちがよいです。 ・感染症はとても大変だったと思います。そろそろ楽になることを願っています。スポーツにはより親しんで、より盛んになるとよいですね。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	3:児童アンケート「（自分は）体を動かすことが好きだ」が85%以上である。	3:			B	0	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	2:児童アンケート「（自分は）体を動かすことが好きだ」が980%以上である。	2:			C	0	
		感染症予防・東一小マニュアルをもとに、感染症予防対策に努めている。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:児童アンケート「（自分は）体を動かすことが好きだ」が80%未満である。	1:			D	0	
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケート「教え方（内容や方法）を工夫している」の満足度が90%以上である。	4:	4	・今年度は2学期、3学期においては、各家庭1名、各学級1単位時間の授業公開とした。また、運動会は、表現運動とかけっこ・短距離走を公開し、東一ステージは、合唱及び合奏を保護者鑑賞日を設定し、ともに各家庭2名の参観とし実施した。保護者からは実施について肯定的な評価をいただいた。今後も「大田区立学校における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」、それに基づく本校のマニュアルに沿って保護者に児童の様子を公開し、評価いただく。 ・校内研究では昨年度は、「対話を通して学び合う児童の育成」の研究としていたが、今年度は、各教科等において、「児童が自ら考え、判断し、表現する力を引き出し、高める」～ICTを活用した授業づくり～をテーマに研究を進めている。管理職による授業観察においても、校内研究と関連付け、ICT機器の活用を指導の中に必ず位置付けるよう周知・徹底を図っている。 ＊保護者276名回答 肯定評価：256名（93%）	A	8	・コロナ禍での生活に慣れもあり、制約はありながらとても工夫して行事も行われていたと思います。子供たちが真剣で充実感に溢れていた様子でとてもよかったです。 ・授業はなかなか拝見できなかったのが残念ですが、支援に入っている理科では、今年度は実験の回数が多かったように感じました。時に支援の難しさを覚えることもあり、コミュニケーション不足がお互いの課題だと思っています。 ・栽培に関しては、どの学年も「植えること」が目的になってしまっている感じがするので、基本的な指導、知識の共有ができたらと思います。 ・近隣住民として、児童の皆さんが安全・安心な学校生活を送っているのは、校長先生、副校長先生始め多くの教職員の皆様と関係者（巡回指導員、施設管理員、児童誘導員、登校支援員・他）の皆様のが登下校から夜間までを見守っているからだと強く感じます。 ・校内外で学校関係者の皆様とお会いするといつも笑顔で優しく挨拶してもらい、ほっとします。そのような皆さんがいる東一小、安心していられます。 ・コロナ禍で皆さん本当に大変でしょうが、学校、家庭、地域のため、これからもよろしくお願いいたします。また、地域で何ができるようなことがあればお手伝いさせてください。 ・先生方が熱心に勉強し、児童への良き教育環境を形つくっている。ここでもICTは重要な活用機器との認識のもと十分に教育に生かしている。 ・東一ステージを鑑賞できて良かったです。 ・運動会は、表現運動と短距離走を見せていただき、児童が全力で一生懸命走る姿に感動しました。また、表現運動も各学年とも素晴らしく、心を打たれるものでした。 ・東一ステージは、合奏と合唱でしたが、各学年の先生方がそれぞれ工夫をしてくださっているのが分かりましたし、それに応えるように一生懸命演奏している児童との一体感を感じました。 ・皆様とてもよく頑張ってくださっているのは分かっているつもりですが、教員の皆さんの表情が険しくなったと感じます。楽しそうではない。感染症対策などの要因もあるでしょうが、先生方が楽しく仕事をされていないと児童は良く育たないと私は思います。
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:保護者アンケート「教え方（内容や方法）を工夫している」の満足度が80%以上である。	2:			B	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					C	1	
		校内研究・校内研修を活性化し、教員の指導力向上に努めている。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「教え方（内容や方法）を工夫している」の満足度が80%未満である。	1:			D	0	
プラン６　学校・家庭・地域がともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:保護者アンケート「地域や保護者と連携した教育活動を進めている」の満足度が　90%以上である。	4:	3	・昨年度と比較し、新型コロナウイルス感染症拡大防止における制限がやや緩和され、学校公開や学校行事等、一部制限はかけてはいるものの十分に行えたと捉えている。しかし、保護者の意見としていわゆる「コロナ前」の状況を熱望される方が多く存在しているのも事実である。学校では、学校だよりや学年だより、ホームページを通して今後も計画的に学校の様子を発信していくようにする。 ・新型コロナウイルス感染拡大の状況を見て、地域巡りや近隣への校外学習、遠足など、感染症防止策の措置を十分に講じた上で児童が地域への興味・関心を高められるような活動を積極的に行った。 ・読書学習司書やPTAの読み聞かせの会の方々の読み聞かせの時間を設定した。今年度はビデオ配信やオンラインでの読み聞かせとなったが、計画的な朝読書の時間を確保することができた。 ＊保護者256名回答 肯定評価：247名（89%）	A	7	・コロナの影響もあり、行事の縮小、PTA活動の簡素化など、学校と家庭の距離が広がっている。あるいは、関係性が変わっていると感じます。保護者会や行事への参加はとても多く関心は高いけれど、受け身で協働感が少ない。保護者の中にはまだまだ前向きで活動的な方がたくさんいらっしゃるし、いろいろな形で意見を交換する機会があればよいと思いました。家庭が担う役割を明確にする必要も感じます。 ・学校、家庭、地域が一体となって活動しているこの嶺町地域、学校防災拠点活動や文化センターまつり、青少対、その他多くの活動で東一小はこの地域にとってかけがえのない存在です。また、地域連絡協議会、学校公開や東一小だより、PTAだより、HPと多岐にわたり開かれた情報公開をしていただきありがとうございます。そして今後も伝え合い、つながり合いながら安全・安心な町づくりをしていきたいと思います。 ・評価が90%に届かなかった。例年このプラン6は評価が低いが高評価に上向いている。地域のイベント等も復活しつつあります。学校行事活動も増えてきましたので、児童もいきいき度が増えています。 ・コロナ禍でしたが、子供たちがズーラシアに行き、少しでも楽しむことができたのではないでしょうか。実行できたことに感謝です。 ・コロナの影響で地域との関わりが少なくなっているかもしれませんが、そういう中でも校長先生始め、学校全体が地域とのつながりを大切にしてくださっているのが伝わってきます。 ・感染症対策が原因ではあるが、地域と家庭とともに活動する機会を増やせなかった。また、数少ない機会をより充実させたものにしたかった。勇気をもった積極性が必要である。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	3:保護者アンケート「地域や保護者と連携した教育活動を進めている」の満足度が　85%以上である。	3:			B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	2:保護者アンケート「地域や保護者と連携した教育活動を進めている」の満足度が　80%以上である。	2:			C	0	
		地域人材や読書学習司書を生かした読み聞かせや計画的な朝読書などを実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「地域や保護者と連携した教育活動を進めている」の満足度が　80%未満である。	1:			D	0	

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。